

できることから始めよう

甲陵こうりゅう中学校 一年 山田やまだ 和弥わみや

令和三年七月三日、熱海市で大規模な土石

流が起きた。山の斜面から茶色い水の塊かたまりがど

っと音を立てて家を飲み込み、下へ下へと流

れていく姿に、思わず息を呑のんだ。テレビや

インターネットでその瞬間しんかんの映像が繰り返

流され、被害の大きさに胸が痛んだ。

僕の住んでいる土地も四方を山々に囲まれ、

近くの山には大きな湖もある。以前、大雨が

続いたとき、地元の消防団員だった父がこの

湖の水位を確認しに行き、土のうを積む作業

をした話を聞いたことがある。僕の住む地域

では毎年、年六回ぐらい当番制で人が集ま

て山の木の除伐じよばいや湖周辺の草刈り作業を行っ

ている。地元じよたんの山の環境を守るために必要な

ことだと父は言う。

日本の国土の約七割が山地であることから、

大雨による土砂災害が起こる確率は決して低

くはない。それなのに僕達は普段、そのこと

を意識していない。雨がたくせん降ると川の水量が増えるので危ないから近づかない。これは一目で危険なことが分かるので、みんなが注意するが、山の斜面や森林の状況を近くで目にすることはないのので、危険を感じにくくい。気付くのは、いつだ。て大きな災害が起きてしま。てからなのだ。

ただ近年、各県市町村がハザードマップを作成したり、土砂くずれが起きやすい地区をかなり細かく特定して避難指示を出すように

対策を立てたりしてくれているので、大変強い。すぐに結果に結びつかないかもしれな
いが、長い目で見て、この成果は大きいと思
う。

この他にも、一度災害が起きてしまった場所
所に国や大学などの専門機関が地質の調査に
入。たり、今後、同じようなことが起こるな
いよう対策を練。たり、必要なは補強工事
をしたリしている。地域によ。てやり方が違
うと思うが、国・県・市町村は様々な形で取

り組んでいるのだ。

しかしながらここ数十年、限られた場所に集中的に雨が降るゲリラ豪雨現象が日本の各地で相次いでいる。短時間に大量の雨が降り続けるので、今までの対策では追いつかないのだらう。時間はかかるかもしれないが、根気よく危険な箇所を調査し、被害を少なくするよう工事を積み重ねていくしかないと思う。日本は地震や台風など自然災害が多い国だ。それ故、災害による犠牲を無駄にしないため

にも、そこから多くのことを学び、考え、技術を発展させてきた。これは素晴らしいことだ。

僕が一つ疑問に思うのは、熱海市の大規模な土石流が今まで家が土砂に流されてしまう原因として、本来、開発してはいけない場所に無理やり土を盛ったり、宅地にしたりと、ことに大きな原因があるのに、なぜこれを指摘して是正する対策を取らないのかと言うことだ。

今回の熱海市の件でも山を切り開いて作
 たソーラーパネルが話題になっ。ているが、自
 然エネルギーを利用するといっ。て、自然の一
 部である木々を一方的に切り倒し、十数年し
 か使えないと言われ、後々リサイクルもでき
 ないソーラーパネルを設置するのは、環境問
 題を新たに作り出しているとしか僕には思え
 ない。日本は世界の中で「G7」に属する程
 の先進国で全。てにおいて優れているはずなの
 に、防災に閉。して言う。と組織が統一化され
 いない。例。えば、山の土砂の流出の防備、土
 砂の崩壊ほうかいの防備、地すべり防止の事業、これ
 らの治山事業は農林水産省の林野庁の仕事。
 土砂災害や地形分類など災害に対するハザード
 マップ作成や河川などの管理と災害の防止
 防災対策は国土交通省。気象庁も、ここに属
 する。山一。の取。つても二つの部署に分かれ
 いて、これで細かい部分まで対策できている
 のか不安になる。本来、地元の市町村が一
 状態を把握していると思。うので、一緒に活動

し、てほし、いし、土木や林業の専門知識のある
 人を国家で育成し、国土・国民を災害から守
 るため、それらの人を活用してほし、い。
 先にも書いたが、日本の国土の約七割は山
 地・森林である。この限られた土地を有効に
 活用し、災害をできる限り防ぎ、人々の暮ら
 しを守り、ていけるよう、国・県・市町村・住
 民で力をつくしていければ良いと思う。僕も
 自分にできることを、今一度考え、行動に移し
 ていきたい。